

## アカシアの思ひ出

高田 友

年配の各位には西田佐知子なる歌手、記憶にあらせられ候はずや。昭和三十五年、「アカシアの雨がやむとき」を以て一世を風靡し給ひし傾國の人にて候へども、またその聲麗しきの段、茲許弱冠の身を以て、已而戀の擒とならずんばあらざりき。

其の玉容、人をして魂を銷さしむるに足れども、蛾眉燦然たる妖艶の佳人には候はで、憂色湛へたる物靜かなる御爲人、年少の男子の胸を焦さしめでは已まず。

凡そ歌の巧拙を以て女性歌手を論ひ候へば、美空ひばりの後繼は此の人を措きて可無之候。今なほ、かつて歌ひ給ひけるをインタネットにて聴き候へば、若き日の夢目の當りに顯現して、人生の行路はるるも來つるかなとこそは嘆息せらるれ。

「アカシア」のレコードの發賣せられたる砌、そのB面は「東京ブルース」にて候ひき。西田佐知子といへば「アカシア」と言はるるに至りたれど、時を逐ひて「ブルース」の名聲高まり、評者に據りては、「アカシア」よりも名曲なりとするも有之候。

此の日來月來、佐知子の君の歌を検索して聴き奉るを事として候ひしが、さらに吃驚すべき歌を見出して候。持ち歌にては候はず。

童謠といふべしや、唱歌といふべしや、某「濱千鳥」のメロディに魅かれ候儀一方ならず。而して、佐知子の君の歌ひたまひける「濱千鳥」見事なるの條、只管感嘆するの外無之候。

此の人の歌に觸發せられて、新古今西行の歌を三首の新體詩様に解題して御座候。三首と申すは、各々、「濱千鳥」「アカシアの雨がやむとき」「東京ブルース」の曲にて歌ふを得せしめ奉らむと試みて候。

諸兄諸姉、インタネットにて、西田佐知子を聞きつつ、空桶の心算にて我が歌詞を歌ひ給はむことを。

文末に我が英譯を併せたり。

隈もなきをりしも人を思ひ出でて

心と月をたつしつるかな

西行

今宵望月隈もなくこよひもちづきくま

見るにつけても君思ふ

涙溢れて霞立ちあふ

かつは月さへ朽つるかな

(二) 《アカシアの雨がやむとき》

ぬばたまの澄み渡る夜

思ふもつらき君ゆゑに

え忍びぬ我が心

涙に濡るる頬上げて

今ひとたびと空ふりさけ見る憂ひかな

などかは隈なき月の霞める

(三) 《東京ブルース》

雲居の上の貴人くもあてびとに

思ひを掛くる我が戀の

涙に霞む夕月明あかしや

ああ金合あかしや歡の花言葉

忍やっぶる戀に身をやっ棄すかな

(註) 西行は高貴の人を思ひて、祕めたる戀に出家の志を固めたりと傳へらる。これに據りて、「雲居の上」とは言ひたるなり。

(註) 西行元歌「心と月をやつしつるかな」とは、つれなき人の所爲にて心棄れ

(「棄す」は「棄る」の他動詞なり)、かつは涙のゆゑにて月の姿の棄れたるを

言ふ。

A stainless full moon is seen hanging in the sky,  
Which reminds me of you, the cold-hearted noble woman.  
Not only do my tears spoil my sleeves,  
But also they ruin a spectacular view of the moon.

(令和四年七月二十七日受附)